日本海洋学会2015年度第3回幹事会議事録（案）

日時：2015年7月24日（金）13：30～18：15

場所：東京海洋大学品川キャンパス9号館203号室

出席：日比谷会長、神田副会長、石坂、市川、伊藤、小埜、小畑、川合、河野、齊藤、鈴村、津田、東塚、原田、山中、事務局毎日学術フォーラム（小野、平坂）

議題：

1. 議事録案確認（川合幹事）

2015年度第2回幹事会の議事録を承認した。

1. 審議事項
2. 入退会について（小畑幹事）

2015年4月～5月の入退会を承認した。5月現在の会員数は1701名。前回の幹事会で指摘された3月の会員異動表について、自動退会者は退会者に含め、欄外に「自動退会者数33名」と記した修正版を確認した。また、3年未納者リストを作成し、幹事会MLを通じて個別の意思確認を行ったことが報告された。

1. シンポジウムの後援・協賛などについて（小畑幹事）

4件の後援・協賛依頼について承認した。

1. 募集・推薦などの依頼について（小畑幹事）

公募・推薦の依頼8件、シンポジウム・講演のお知らせ5件、その他通知2件について、適宜ML配信などの対応を行ったことが報告され、承認した。

1. 2016年度名誉会員推薦について（小畑幹事）

名誉会員の候補者についての説明があった。3名の会員を推薦し、次回の評議員会ならびに総会で審議に諮ることとなった。

1. 2015年度秋季大会シンポジウム開催の承認について（鈴村幹事）

愛媛での大会でのシンポジウムおよびナイトセッションの開催および主催・共催を承認した。最終日9月30日にシンポジウムが提案されていないため、大会日程を9月29日までと変更することを承認した。

1. 2016年度春季大会について（鈴村幹事）

2016年度春季大会の「開催通知」、2016年度日本海洋学会春季大会のセッション募集」および「日本海洋学会コンビーナー・ガイドライン」の案を確認した。また、「2016年度日本海洋学会春季大会シンポジウム等の開催申請について」は修正が必要であるため、次週メール審議に諮ることとなった。また、プログラム編成員会への幹事会メンバーの参加については、次回の幹事会で検討することとした。

2016年度春季大会実行委員会により、セッション制を試験的に導入することが決まり、あわせて本大会のシンポジウムは「2016年度日本海洋学会春季大会シンポジウム等の開催申請について」に記載されている条件を満たしたものとすることとした。これらについて、大会実行委員長と日比谷会長の連名で案内文を作成し、8月半ばに会員に周知することとなった。

また、今後の大会においてセッション制やプログラム編成委員会を恒常化する場合、会則の改定も視野に入れて、評議員会ならびに総会で審議する必要があることを確認した。

1. 長期的な大会運営の変更に関する提案について（日比谷会長）

大会運営の変更に関する会員向けの案内文が提案され、議論した。国際化並びに国内学会との連携強化のために大会運営の変更を検討する必要性については一致したが、問題点の明確化が必要なため、他学会の情報などを収集してさらに検討した後、会員向けの案内文を出すとともに評議員会で検討することとした。

1. 海洋環境委員会の新委員について（鈴村幹事）

海洋環境委員会に、4名（小埜恒夫会員、福田秀樹会員、山田奈海葉会員、藤井賢彦会員）を新たに委員として加えることが提案され、承認した。

1. 「海洋教育実践」に関わるオープンセッション開設について（伊藤幹事）

海洋教育問題研究会から、来年度以降の大会において海洋教育に関わる非会員（理科教員やその指導する学生など）を含めたオープンセッションをポスター会場あるいは機器展示会場で開催したいという提案があった。教育問題研究会で具体的な内容を検討の後、シンポジウム・ナイトセッションと同様のイベントとして大会に申し込みを行う方針となった。ただし、無料参加者は他の講演会場へは入場できないことを確認した。また、将来的なオープンセッションの開設については、別途今後の大会におけるセッション制の導入とともに検討する方針となった。

1. 2016年大会プログラム委員選出（日本地球惑星科学連合）（原田幹事）

2016年度地球惑星連合大会のプログラム委員2名選出の依頼があり、原田幹事と東塚幹事を登録することとなった。

1. AGU-JpGUジョイントセッションについて（日比谷会長）

2016年度地球惑星連合大会におけるAGU-JpGUジョイントセッションについて、海洋学会員から提案のあった4件をJpGUに提出することを承認した。

1. 大型研究計画WGについて（日比谷会長）

マスタープラン2017策定にあたってのアンケート協力依頼が届いたこともあり、大型研究計画に関するWGを立ち上げることとなった。メンバーは会長、副会長、庶務幹事、齋藤幹事、河野幹事、原田幹事の6名。

1. 報告事項
2. 会長（日比谷会長）

IUGG、山形会員のアルベール一世メダル受賞式、高田秀重会員と道田豊会員の海洋立国推進功労者表彰受賞などについて報告があった。

また、岩宮名誉会員が逝去されたこと、近日偲ぶ会が催されることが報告された。

1. 副会長（神田副会長）

若手集会助成に応募のあった2件を採択したことが報告された。

1. 庶務（小畑幹事）

前回の幹事会で承認された著作権の管理委託について、Springerに確認した結果、JOの電子複写権は含まないこととなったこと、地学オリンピックの推薦依頼に対応したことが報告された

1. 会計（齋藤幹事）

一連の名義変更を全て終了したことが報告された。大会口座に現金振り込みによる入金があった場合、大会実行委員会と庶務幹事に知らせることを確認した。

1. 編集
	1. JO（石坂編集委員長）

発行および投稿数についての状況説明があった。

2014年のインパクトファクターは1.271で、前年より若干下がったこと、特集号の編集作業ならびに投稿既定について明文化することを検討していることが報告された。

* 1. 海の研究（市川編集委員長）

24巻4号を刊行したこと、次号は現在審査中の論文の受理を待って発行すること、総説3件を依頼したこと、前回の幹事会で認められた投稿既定の改定を6月1日にMLで告知したこと、編集委員の役割の見直しを行ったことが報告された。

* 1. JOS-NL（津田編集委員長）

次号は間もなく発行される予定であること、次々号の巻頭ニュースを募集していることが報告された。

1. 研究発表（鈴村幹事）

学会事務局の協力のもと、大会運営業務のアウトソーシングについて、各企業との契約を大会実行委員会から学会（幹事会）へと変更を進めていることが報告された。

1. 選挙（山中幹事）

今年度の選挙は、各賞可否投票および賞選考委員半数改選を行う予定であり、詳細なスケジュールは次回幹事会で提示するとの報告があった。

1. 広報委員会（原田幹事）

本年度設置された広報委員会の業務をまとめた文章が紹介された。

1. 海洋環境委員会（鈴村幹事）

青い海助成事業に応募があり、現在委員会で審議中であるとの報告があった。

1. 教育問題研究会（伊藤）

教育問題研究会の諸活動について、資料に基づき簡単な報告があった。

1. 日本地球惑星科学連合（日比谷会長）

選挙日程が決まったこと、2017年春の連合大会がAGUとの合同開催となることが確定したこと、参加費値上げを検討中であることが報告された。

1. 日本科学振興財団（神田副会長）

研究船と練習船に関する委員会が設けられ、日比谷会長が参加していること、次回会合は8月末であることが報告された。

1. 震災対応（小埜幹事）

11月27日に魚介類の放射能汚染に関する公開シンポジウムが開催され、神田副会長が講演を行う予定であることが紹介された。また、震災関連ウェブサイトを更新したことが報告された。

1. 若手支援（神田幹事）

若手集会助成について、承認された2件の準備が順調に進められていることが報告された。また、助成金の使用方法について応募者から質問があったが、若手集会助成の趣旨に即した旅費支援や会場費など飲食以外であれば使用可能であることを確認した。

1. 海洋観測ガイドライン編集委員会（小埜幹事）

9月末に日本語版を公開する予定であることが報告された。

1. 大型研究計画について（原田幹事）

第23期大型研究計画について、今後の日程と、複数学会の連携による計画提案が必須であることなどが紹介された。

次回幹事会 日時：9月26日（土）18：00～

 場所：愛媛大学城北キャンパス内